

# 令和5年度守恒小 「主体的・対話的で深い学びの実現

## ～生徒指導の要素を含む『学び合い』の活用を通して～

### 1年 生活 「たのしい あき いっぱい ～秋博士になろう～」

**本時の主眼:**春・夏・秋の公園の植物の様子を見比べ、季節によって植物の様子が変化していることに気づき、秋の自然と関わりたいという思いを持つことができるようにする。

**単元を通して目指す子どもの姿:**「仲間をだれ一人取り残さない」仲間意識、「授業が楽しい」「分かった」「安心できる」「うれしい」といった達成感や感動を味わう。

**手だて①**複数人の交流ではなく、ペアでの交流にする。

**手だて②**『聞き名人になろう』と『発表名人になろう』を意識させて、友達との対話の中で多くの「分かった」や「新しい気づき」を引き出す。

**個人思考の姿:** A 季節の変化に注目し、気づいたことを言語化することができる。 B 季節の変化に気づくことができる。 C 友達の意見を聞く中で、変化に気づくことができる。

**手だて①**ICTを活用して、写真を見るなかで季節の変化に気づくことができるようにする。

**手だて②**年間を通して、同じ公園に繰り返し行くことで季節の変化を実際に体験することができるようにする。また、児童が実際に行った公園のミニ公園を隣の教室に作り、学習の中で子ども達が気軽に公園探検に行くことができるようにする。

**手だて③**学習の中で見つけた秋を、絵と文でカードにまとめる。

**「学びあい1」個人思考後の集団思考の姿:**追及する問いについて交流する活動の中で、友達の話を聞いて「そうか」と受け止めたり、「いいね」と共感したり、分からないところは尋ねたり、自分の意見を付け加えたりすることで、深い学びへとつなげていく。

**手だて①**複数人の交流ではなく、ペアでの交流にする。自分の意見をペアに伝えることができるようにする。

**手だて②**『聞き名人になろう』(「いいね」「同じです」「なぜ?」「どうして?」)と『発表名人になろう』(「まず」「つぎに」「それから」「わけは」)などを教室に掲示し、活発な意見交流ができるようにする。

### 成果と課題

#### 単元を通して目指す子どもの姿

##### 【成果】

○ペアでの交流にすることによって、自分の考えに自信をもったり、新しいことに気付いたりすることができた。

○ペアでの交流にすることで、全員が学習の中で自分の考えを話すことができた。

○年間を通して季節の変化を追うことで、秋の良さに気づき、秋博士として意欲的に学習・活動することができた。

##### 【課題】

●ペアによっては、自分の考えを伝えるだけになってしまい、深い学びにつなげることができなかった。

●実際の季節が四季から二季になっている環境から、季節の分け目が難しくなり、学習の中で児童が迷う姿が見られた。

●ミニ公園で実際のものに触ったり、提示したりしながら発表させると児童の学習の中での感動により繋げることができたと考えられる。

#### 本単元を通しての四つの手立て

##### ①感じたことを共有する言語活動について(『「学びあい1」個人思考後の集団思考の姿』)

##### 【成果】

○ペアでの交流にすることによって、自分の考えに自信をもったり、新しいことに気付いたりすることができた。

○ペアでの交流にすることで、全員が学習の中で自分の考えを話すことができた。

##### 【課題】

●ペアによっては、自分の考えを伝えるだけになってしまい、深い学びにつなげることができなかった。

##### ②学習評価の工夫について

##### 【成果】

○学習を通しての振り返りノートを作成することで、学習の進み中で児童のどのような考えの変化や新しい気づきがあったのかを学習全体を通して、指導者が見取ることができた。

○振り返りの視点を出すことで、次時への意欲を高めることができ、振り返りシートに児童が迷わずに感じたことを記入することができた。

##### ③ICTの活用について(『個人思考の姿』手だて①)

##### 【成果】

○公園に行ってから、時間が経っても写真を通して、公園に行った時のことを思い出すことができた。

○ペアに一台にすることで、話し合いの場を設定することができたり、“全員”で学習に望むという意識を持たせたりすることができた。

##### 【課題】

●タブレットの技術を向上させるための時間が非常にかかる。

●学習への意欲付けにはなったが、本物が触れず視覚的なアプローチになるため、実際に体験する場を必然的に用意しなければならない。

##### ④季節ごとの公園の様子を想起させるための場の設定(『個人思考の姿』手だて②)

##### 【成果】

○実際に、見たり触ったりすることができ、児童に多くの体験的活動時間を用意することができた。

○教室の近くにミニ公園が存在するため、いつでも気軽に公園を訪れることができる。

○教師主導で公園を作成するため、『秋のもの』をテーマに子ども達に見せたいものを厳選して紹介することができる。

##### 【課題】

●様々な植物の様子を掲示したことで、学習で狙いとしている点への焦点化が難しくなってしまった。

●季節の変化が分かりやすい植物が少なく、学習する中で子ども達と季節を迷う場面があった。

振り返りシート

